

## 発刊によせて

ビジネス創造センター（CBC）  
センター長 李 濟民  
（大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻 教授）

国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センターの「平成 22 年度研究活動報告書」を刊行するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本学は建学以来一貫して「商学」を「実学としての社会科学」と位置づけて、その時代、時代にふさわしい「実学の実践」に取り組んで来ました。ビジネス創造センター（CBC = Center for Business Creation）は、その本学に、社会科学系国立単科大学として、全国最初に開設（平成 11 年 4 月）された地域共同研究センターです。

昨今大学の機能として、その研究成果を活用した「社会貢献」および「地域連携活動」が、より一層重要視されています。CBCは、こうした時代の要請を受け止め、本学に連綿と受け継がれている実学の伝統と歴史的遺産を生かし、産学官連携活動と地域経済の活性化に寄与すべく取り組んで来ました。本報告書は、CBCの平成 22 年度の歩みをご紹介します、さらなる未来に向けた新たな社会貢献を目指すマイルストーンとして刊行するものです。

現在日本は 3 月 11 日に発生した東日本大地震と原子力発電所の事故により様々な困難に直面しています。その復興のための道筋がなかなか見えない中で、今までとは異なる新しい発想と行動力でこの危機を何とか乗り越えることが求められています。加えて今年度は本学にとって創立 100 年を迎える特別な年でもあります。

このような状況の中でCBCは23年度から事業内容の重点を①イノベーションを目指した産業振興プロジェクトの推進、②ビジネスサポートの積極的展開、③開放型研究セミナーなどによる「知の循環構造」の構築に移し、より一層その活動幅を広めることで、新たな時代の先導者の役割を果たして行こうとしております。

具体的には、地域社会のニーズを掘り起こし、本学と行政機関や民間企業、NPO 法人などとの共同研究プロジェクトを推進してまいります。また共同研究先や一般市民を交えた開放型研究セミナーを設けて、多種多様な意見を取り組んだ解決策を模索しながら知的蓄積をはかっていきます。そしてさらにその内容を積極的に公開し社会に還元する「知の循環構造」を実現してまいります。

本報告書をご一読いただき、皆様にCBCの活動をご理解いただくと共に、新しいCBCに対して一層のご指導、ご鞭撻を賜るようお願いする次第です。

平成 23 年 6 月